第３　問題作成部会の見解

地　　理　　Ａ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア　地球儀や地図からとらえる現代世界」，「⑵生活圏の諸課題の地理的考察」における「ア　日常生活と結び付いた地図」，「イ　自然環境と防災」に関する大問である。複数の資料や地図などから，多面的・多角的に地域の特色を理解する力を問うた。中問Ａは地理的技能とその活用についての問である。問１は，正距方位図法の表現と特性を考察する問いである。問２は，陰影起伏図から地形と土地利用とを結びつけて考察する問いとしている。問３は，地形図と説明文に基づいて，地形や立地の特徴などについて読み取る力を問うている。中問Ｂは日本の自然災害と防災に関する問いである。問４は，地震と地殻変動の特徴，随伴現象の理解について問うている。問５は，複数の自然災害に対するハザードマップから地域的な特徴について思考する問いである。問６は，自然環境や自然災害への備えとなる設備の景観写真から現象との関わりを思考する問いである。大問全体の難易度は概ね標準的であった。

第２問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ　世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には，「イ　世界の生活・文化の多様性」における「世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ，その多様性」を考察する力を問うている。大問の内容としては，まずはじめの４問で，各地の衣食住や宗教に関して，自然環境や社会的背景などを通して理解を問うた。具体的には，問１で楽器に着目した伝統文化，問２で高緯度地域の住居，問３でアフリカ大陸の宗教分布，問４でベトナムのローカルフードを取りあげた。また，後の２問では，国際観光行動の特徴や，時差にかかわる経済・生活の状況について扱った。具体的には，問５でいわゆる観光大国における国際観光収支を通してみた地域性を扱い，問６で時差を利用した経済活動や余暇活動について考えるという構成になっている。難易度は標準的であった。

第３問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸地域の地理的考察」のうち，「イ　世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には東南アジアを地誌的に概観するものである。問１は，東南アジアの自然環境について考える思考力を問うた。問２では，東南アジアの自然環境の多様性を，いくつかの領域の特徴から問うた。問３は，東南アジアの自然環境と農業形態に関する考察を深める問いとした。問４は，祝祭日を題材に，各国でみられる宗教や移民の特徴などを考察する問いとした。問５は，東南アジア各国の経済発展の違いについて考察を深める問いとした。問６は，輸出依存度と人口の各指標から域外とのつながり

方について探究させる問いとした。大問全体の難易度は少し高かった。

第４問　学習指導要領「地理Ａ」の内容「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ウ　地球的課題の地理的考察」を中心とした大問である。具体的には，都市への人口集中とそれに伴う課題を発展途上国と先進国を比較して，実態，背景，解決の糸口までを一つの筋道として探究していくという場面設定とした。問１は，都市への人口集中の問題が経済発展の違いによって異なることを問うた。問２は，先進国の都市問題について，大都市圏の発展段階モデルを活用して理解できるかを問うた。問３は，発展途上国の都市への人口集中がどのような背景によって生じているのかを問うた。問４は，先進国の都市における交通渋滞削減に向けた取組みをいくつか取り上げ，それが適当かどうかを問うた。問５は，発展途上国の交通渋滞の実態と対策がいかに実施されているのかを問うた。問６は，都市問題解決には農村側にも目を向ける必要があることについて問うた。難易度については，概ね標準的であった。

第５問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑵生活圏の諸課題の地理的考察」における「ウ　生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。高知県須崎市とその周辺地域を対象に主題図や地域統計，各種写真などの多様な資料を活用することを通して，多面的・多角的に地域的特徴を見出す力を問う内容を出題した。まず，問１は，交通の結びつきから，高知県の縁辺性を考えさせる問いである。次に，問２は，自然環境の特性を地形図等から考察させた。その上で，問３は，新旧地形図から土地利用の変化を探究する。さらに，問４は，高知県と須崎市の農業の特徴を考察する力を問うた。また，問５は，自然環境と人間生活の関係を防災施設の観点から考えさせる問いである。最後に問６は，自然環境と人間活動の関係を考え，生物多様性や地球的課題を身近な地域から考える思考力を問うた。なお本問は，「地理Ｂ」との共通問題であるが，特に「地理Ａ」の受験者に不利になったという評価は見られなかった。また，地域的に有利・不利の差は生じなかったと判断される。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　地図投影法や等高線の読み取り，陰影起伏図，メッシュマップ，写真などセンター試験でも出題されてきた基本的な知識や技能を問うたものが多く，難易度は標準的であるとの評価であった。問１は，図法に関する知識や技能を基に地図に当てはめて考察する基本的な良問であるとの評価であった。問２は，地点の位置の設定にもう少し工夫があってもよかったとの指摘があった。問３は，地形図の読図で難易度は標準的であるが，地図記号や距離・面積の比較など広く地形図に関する知識を問う問題も考えられるとの指摘であった。問４は，地震のメカニズムと防災に関する基本的な問題であるものの，「緊急地震速報」について問うた点は難易度が比較的高いとの指摘であった。問５は，難易度は標準よりやや高いものの，地理的技能を測る上では必要な問題であり，良問であるとの評価を受けた。問６は，自然災害に対する備えに関する基本的な良問であるが，学習内容との対応性に工夫の余地があるとの指摘を受けた。全体を通じて，地理の基本的な知識を用いた技能や見方・考え方を問う大問であることが評価されていた。防災意識をより高めるという出題意図も的確に伝わっており，適切な資料を踏まえて思考力，判断力を問う作題を今後も検討していきたい。

第２問　大問タイトルに相応しい内容であり，基礎的な知識をベースに思考力・判断力が求められる問題形式となっているという評価を得た。ただし，問題の難易度については標準的という評価と，やや細かな知識理解を問う小問が複数みられ難易度は標準より高いという評価があった。問１は，地図中の気候が理解できれば服装などの特徴から解答可能であるという評価であったが，一部の写真で読み取りがやや難しいというコメントもあった。問２は，学習内容に沿

った易問であると評価された。問３は，解答は容易であるが異なる二つの内容を一つの小問で問う４択は受験者への負担が大きいという指摘があった。問４は，料理の写真から文化の伝播について考えさせるものであったが，調味料のルーツに関しての問いについては，難易度が高いという指摘があった。問５は，観光に関する統計を読み解くものであり，難易度は高く解答時間をやや要するが，国の結びつきを考えさせる良問であるという評価を得た。問６は，時差を利用した経済・余暇活動に関するものであり，解答は容易であるが，選択肢についてはコメントがあった。写真など多様な資料を提示しつつ，幅広い知識理解を問えるような適切な難易度・解答時間を目指し，今後の作問に努めたい。

第３問　全体的に与えられている資料を丁寧に読み取り，様々な知識を関連付けて考察することを求めている問題が多く，バランスの良い出題であるとの評価を受けた。問１は，降水量と植生との関わりという２段階で考えさせる流れが，共通テストとして定着してきたと評価されたが，出題形式への疑問も指摘された。問２は，自然条件や経済条件に関する知識を基に，地図に当てはめて考察する問いだが，出題方法にもう一工夫ほしいとの指摘も受けた。問３は，写真の読み取りから農作物を考えさせ，栽培地域を判定させる地理的思考力を問う良問と評価されたが，写真が分かりにくいとの指摘も受けた。問４は，祝祭日を示した表から各国の宗教的な特徴を考えさせる問題に目新しさを感じるとの評価を受けた。問５は，各指標と図の判定に細かな知識が問われ，難易度が高く時間も要すると指摘された。問６は，輸出依存度と人口を示した表から各国の特徴を読み取り，国内の市場規模や貿易依存度に関する見方や考え方を働かせて考察する良問と評価された。全体的にやや難易度の高い問題で構成されていると評価されたため，今後は受験者のレベルに相応しい出題を心がけていく必要がある。また，ストーリー性や課題設定を意識した問題構成についても検討を加えたい。

第４問　大問全体としては，図表の読み取りとその背景，模式図からの具体的事象への思考や様々な取組みの効果など，基礎的知識をもとに地理的な見方・考え方を働かせる思考力・判断力を問う問題も多く見られるとの評価を受けた。問１は，都市人口に関する統計が示された表中の３か国を判別する定番の問いであるとの評価を受けた。問２は，都市の発達に関する時間軸と場所に関する概念的理解が必要で，思考力を問う工夫された良問との評価を受けた。問３は，既有知識を用いて変化の背景や展望まで考察させており，地理的な思考力を問うた良問との評価を受けた。問４は，先進国のよりよい都市交通のあり方について構想する問題であり，普段の学習から解決策を取りあげて，それがどのような意味や効果を持つのかについて考えておく必要があるとの評価を受けた。問５は，テーマの資料に基づいた具体的な考察があると，資料から問題点を分析し対策を考えさせる問いになるのではないかとの指摘を受けた。問６は，まとめとより広い視点から考察を行ったという意図は読み取れるとの評価を受けた。今後は，大問全体の問題意識をより反映した小問を作成することを心がけたい。

第５問　全体としては，調査のプロセスに沿いながら複数の項目に関連する地図や写真，統計などの資料を読み取り，形式であり，資料読解力と思考力・判断力があれば解答可能な良問であるという評価を受けた。またキャラクターや動物といった興味深い資料を基に考察する場面設定が，探究活動に関心を高める工夫も評価された。問１は，基礎的知識を踏まえた上で回答できる良問との評価を受けた。問２は，地図や衛星写真から地域の特徴について考察する問題で，難易度は適当との評価を受けた。問３は，地図と文章とを比較検討し解答に導くことができ，思考力・判断力を重視する良問との評価を受けた。問４は，資料から特徴を読み取り，文章に示された内容と照らし合わせながら，産地と消費地の需給を考察する問題で，平易との評価を受けた。問５は，難易度は低いが，地域コミュニティのあり方や対策などについて意識してお

く必要性を伝える点で良問との評価を受けた。問６は，内容や考察する範囲を地域調査の対象地域よりも広げた点について高く評価を受けた。全体を通して，分量や出題の形式に注意しながら，地域調査の問題として，臨場感を出して地域の特色を明らかにしつつ，適切な資料や過程を踏まえて思考力・判断力を判別できる作題を今後も追求していきたい。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ａ」の学習内容に概ね合致しており，豊富な地図資料に加え，生徒が作成した資料等を用いた学習プロセスに沿った出題が評価された。また，「場面設定」の問題では，高等学校の授業をイメージした展開になっており，高等学校の授業等でも大いに参考になる好事例であるとの評価であった。資料が精選された中でも，知識・理解をもとにした思考力や判断力について十分に問われており，知識偏重とならない工夫された出題がなされている点についても評価された。

一方で，単純な図表の読み取りや，前後の文脈で容易に解答に至ることのできる出題も散見されるという指摘も受けた。高等教育への影響を鑑み，また教科書の内容も踏まえ，求められる知識水準の共有化を進めるとともに，知識定着や地理的技能の活用，更に地理的な見方・考え方の応用といった各側面を総合的かつ適切に問えるよう，今後の問題作成でも継続して留意する必要がある。

⑵　難易度については，昨年度と比較すると少し高くなったと考えられるが，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からも評価されたように，全体的には適正であったと考える。今後の問題作成の際にも，科目間の調整を図りつつ適正な難易度について十分留意したい。

⑶　出題範囲については，知識の質や思考力・判断力・表現力等，さらにそれらに基づいて将来を構想する問題で構成されており，適切だったと評価された。一方で，資料が豊富に示され，複数の資料を照らし合わせるなどして解答に時間を要する小問があることについても指摘がなされた。地図・主題図・模式図・写真を活用した出題や，それらと図表を組み合わせた出題については，出題意図の伝達や情報の読み取りやすさも含め，今後も重要な課題として検討を続けていきたい。

⑷　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であるとの評価を受けた。高等学校では「地理総合」が始まり，「地理Ａ」の試験は内容上大きく重なるものもある。「地理総合」への移行に際してのモデルとしての役割も踏まえ，今後も，作業的，体験的な学習を通じて地理的な技能や思考力・判断力を養うことを重視する「地理Ａ」の内容に即した問題作成を継続していきたい。

地　理　Ｂ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑵現代世界の系統地理的考察」における「ア　自然環境」に関する大問である。様々な資料から，各地域の自然環境の特色について空間軸と時間軸を踏まえて多面的・多角的に考察する力を問うた。単純な知識を問うのではなく，図やデータの読み取りに基づき，各テーマについて思考させる作業を含めている。問１は，ユーラシア大陸の東西の各地点の気候についての小問であり，限られた降水量の情報から各地点の気候区分を考察する。問２は，内陸河川を対象とした小問であり，気候条件から河川の流れる方向を類推させるとともに，内陸河川特有の環境問題を考える。問３は，侵食の速さを題材とした小問であり，地殻変動と土地利用の状況から侵食の速さとその変化を多角的に考察する。問４は，熱帯低気圧を題材とした小問であり，南・北半球の違いや海水温の分布から，熱帯低気圧の発生数と移動方向を考察できるかどうかを問うている。問５は，日本の主な河川の月平均流量の変化について，気候条件の違いから，流量の季節変化について類推する。問６は，陰影起伏図を基にして河川周辺の地形の種類を判読し，地形・災害リスクの相互関係を考察する小問である。難易度は，全体的に少し高かった。

第２問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑵現代世界の系統地理的考察」における「イ　資源，産業」に関する大問である。具体的には，「世界における産業と結びつき」をテーマに，世界各地における資源の分布や技術の現状と課題について，主題図や統計図表などから，自然条件や経済・社会的条件を考慮し，多面的・多角的に思考させる問で構成している。まず，問１は，原料資源の産出地と金属の生産国の関係性を問うた。問２は，製品の生産と輸入との関係性を主題図から読み取り，食品加工業にかかわる背景について思考させた。問３は，漁業資源管理に関する漁業種別漁獲量の推移と地域差を読み取らせる問いとした。問４は，同じ作物でも栽培地域が多様であることを理解させるとともに，国によって異なる栽培条件を考察させた。問５は，穀物貿易の世界的動向およびその背景を捉え，問６は，情報通信技術の普及とその地域差を図から読み取り，各国の国土面積や社会・経済的な情勢とその変化と関連付けて正しく考察できるかを問うた。全体の難易度は標準的なものであった。

第３問　「地理Ｂ」学習指導要領「⑵現代世界の系統地理的考察」の「ウ　人口，都市・村落」に関する大問である。探究プロセス型の設問とし，日本の人口問題についての探究，少子化と都市部の保育所立地に焦点化していく探究活動を想定して問いを配列した。問１は，人口変動の背景に共通性がみられることを念頭に，人口転換のモデルを前提とした理解を問う設問を設けた。問２は，世界のいくつかの国の社会増減の大まかな傾向性を把握できるかを問い，問３は，合計特殊出生率の変化の特徴や背景を比較しながら考察できる力を問うた。そこから人口

問題の社会・経済的な背景を追究していくために，問４は，財政的な問題，問５は，世帯構造などの社会的な事象，問６は，都市構造とのかかわりを考察する問いとした。問１，３，６の正答率が高くなった一方，問４，５では正答率が低く，識別度も低かった。問２は標準的な正答率であった。問全体でみれば，平均正答率は妥当な水準であったものの，識別力の面で課題を残した。

第４問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑶現代世界の地誌的考察」における，「イ　現代世界の諸地域」に関する大問である。具体的には，地中海を取り巻く北アフリカ，西アジア，ヨーロッパの３地域の関係性を，自然環境，人間活動，および社会状況を取り上げ，主題図や図表の資料を通じて，多様なスケールから特色を見出す力を問うた。問１は，地中海沿岸の自然環境とエネルギー，問２は，農作物の生産と貿易をめぐる時代変化，問３は，自動車産業の輸出入から見る国際分業の変化，問４は，国際援助額と訪問客数による人と資金の移動，問５は，地中海沿岸の都市（スペイン，チュニジア）の都市景観をめぐる共通点と差異，問６は，スペインとチュニジアの産業構造の変化をめぐる時系列的な比較を問うた。大問全体の平均得点率は標準的で，各小問の正答率をみると，問５で高く，一方で問１と問４で低かった。また，識別力については，問２と４で低く，他の小問については大きな問題がなかった。

第５問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑴様々な地図と地理的技能」の，主として「イ　地図の活用と地域調査」に関する大問である。高校生がマスコットキャラクターから興味を持ったという身近な設定とし，高知県須崎市とその周辺地域を対象に多様な資料を活用することを通して，多面的・多角的に地域的特徴を見出す力を問う内容を出題した。問１は，交通の結びつきから高知県の縁辺性を考えさせる問いである。次に問２は，須崎市周辺地域の自然環境の特性を地形図等から考察させた。その上で，問３は，新旧地形図から須崎市中心部の土地利用の変化を探究する。さらに，問４は，高知県と須崎市の農業の特徴を考察する力を問うた。また，問５は，自然環境と人間生活の関係を防災施設の観点から考えさせる問いである。最後に問６は，ニホンカワウソの絶滅をきっかけに自然環境と人間活動の関係を考え，生物多様性や地球的課題を身近な地域から考える思考力を問うた。なお本問は，「地理Ａ」との共通問題であるが，特に「地理Ｂ」受験者の方が不利ということはなく，受験者の地域的な有利・不利の差も生じなかったと判断される。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　世界の自然環境と自然災害に関する大問であり，気候や地形などの自然環境を単純に問うのではなく，人間の生活と結びつける問や思考力が必要になる問が多く含まれているとの評価を受けた。一方で河川に関する題材の小問が多く，気候にやや偏った内容になっていたことも指摘された。小問別では，問１は，風の影響や隔海度の観点から解答に至ることができるが，やや難しい問いであると評価された。問２は，アフリカ中・低緯度地域の内陸河川の流れる方向と環境問題に関する問題であり，やや難しい問いであると評価された。問３は，地殻変動の状況や森林破壊などの人為的影響から侵食速度の特徴について判断する小問であり，良問であると評価された。問４は，熱帯低気圧の移動経路に関する問題であり，平易であるという評価と，難問であるという評価に分かれた。問５は，日本国内の３地点の流量の年変化について，降水量の変化に加えて雪融けを含めて考察する小問であり，良問であると評価された。問６は，陰影起伏図と地形分類図の読み取りに基づいて，豪雨時の災害危険性について判断する小問であり，良問であると評価された。全体として，問題を解くうえで思考力を必要としている問題構成について，一定の評価を受けたと判断できる。今後，出題内容や難易度のバランスにも配慮

しつつ，思考力を問うことのできる問題作成に努めたい。

第２問　全体として，資源・産業に関して多面的に問われる統計や図表類を読み取る能力が試される問題であったとの評価を受けた。問１は，関連する鉱工業を同時に出題する共通テストらしい形式として評価された。問２は，授業で直接扱うことが少ないツナ缶を題材として，読図や産業立地のみならず背後にある文化などを考察させる問題として高い評価を受けた。問３は，栽培漁業の成長や南アメリカ沖太平洋の漁業の特色を問い，難易度は標準的との評価を受けた。問４は，思考力を問う問題として評価された。問５は，難易度は標準的との評価と，地域の判読は容易であるという評価が分かれた。問６は，地理的技巧と思考力から正答にたどり着ける良問との評価を得た。本大問では，分布や統計量を示す世界図を複数用いた際に図法や図の中心が日本とヨーロッパであるものが混在し，統一すべきではないかとの指摘を受けたが，今後，それぞれ主題図を読み取りやすくするための工夫を凝らしたい。

第３問　探究的な学習を想定した大問で，教科書等で一度は見たことのある図表と初見の図表が，バランスよく配置されているとの総評を得た。小問別では，問１は，人口ピラミッドと出生率・死亡率の変化を示したグラフの組合せ選択について，見方・考え方を問う工夫された問いとの評価を得た。難易度は標準的と評価された。問２は，４か国の社会増加率の推移を問う問で，難易度は標準的との評価を得た。問３は，現在の合計特殊出生率に関する説明文から誤りを含むものを選択する問で，基礎的な問題と評価された。社会保障負担率と租税負担率から該当する国を問うた問４は，基礎知識として扱っている内容でも，初見の表で示されると判別しにくく，比較的難易度は高いと評された。問５は，学習する機会が少ない夫婦共働き世帯の割合と単独世帯の割合の判別は，難易度が高く改善の余地があるとの意見があった。問６は，東京大都市圏内の保育所の整備状況についての図を読み取る問いであり，時事的な問題を扱い考察するという，共通テストらしい良問との評価を得た。情報量がやや多いが，丁寧に読み解けば解答にたどり着けるため，難易度が低いという課題もあった。大問全体の構成について，都市に関する問が問６だけであり，日本と世界，人口と都市のそれぞれにバランスの取れた作問を期待したいとする評価もあった。出題内容のバランスについては，次年度以降の作問にあたって配慮していきたい。

第４問　地中海をめぐる地誌を，従来の試験における地域区分とは異なった区分で捉え直す視点や，他地域との関係に着目しながら動態的に捉える意図を評価された問題であった。問１は，教科書の知識に基づいて考えることのできる，標準的な問題との評価を受けた。問２は，他地域との関係性のなかから地域を動態的に捉える視点や，用語の本質的理解や図の読み取り方を問うている点が評価された。問３は，地中海を取り巻く地域の関係性を多角的に考察しながら思考力・判断力を問う問題との評価を受けた。問４は，地域の歴史的つながりや経済状況を踏まえて総合的に判断する点が評価された。問５は，都市空間を事例に，自然地理と人文地理の視点から総合的に問うている点が評価された。問６は，標準的な問題との評価を受けるとともに，図から大観して考察する力を問うている点が評価された。大問全体では，標準的な問題であるとともに，地誌学習の新たなあり方を提示した，意欲的な問題としての評価を受けた。

第５問　全体としては，調査のプロセスに沿いながら複数の項目に関連する資料を読み取り，複数の選択肢と結びつけながら回答を見出す形式であり，資料読解力と思考力・判断力があれば解答可能な良問であるという評価を受けた。またキャラクターや動物といった興味深い資料を基に考察する場面設定が，探究活動に関心を高める工夫も評価された。問１は，基礎的知識を踏まえた上で回答できる良問との評価を受けた。問２は，地図や衛星写真から地域の特徴について考察する問題で，難易度は適当との評価を受けた。問３は，地図と文章とを比較検討し，

丁寧に読み解けば解答に導くことができ，思考力・判断力を重視する良問との評価を受けた。問４は，資料から特徴を読み取り，文章に示された内容と照らし合わせながら，産地と消費地の需給を考察する問題で，平易との評価を受けた。問５は，地域性を踏まえた防災の在り方を主体的に追究する問題であり，難易度は低いが，地域コミュニティの在り方や対策などについて意識しておく必要性を伝える点で良問との評価を受けた。問６は，内容や考察する範囲を地域調査の対象地域よりも広げた点について高く評価を受けた。全体を通して，分量や出題の形式に注意しながら，地域調査の問題として，臨場感を出して地域の特色を明らかにしつつ，適切な資料や過程を踏まえて思考力・判断力を判別できる作題を今後も追求していきたい。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ｂ」の学習指導要領の目標と内容に沿っており，全問題を通して高等学校での学習内容を踏まえた様々な問題で構成され，出題分野のバランスは適切であるとの評価を得た。また，資料の読み取りをはじめとして多面的・多角的に考察することが求められる一方で，解答に相当の時間を要するとの指摘もあった。分野間のバランスや資料・出題形式のバランスのほか，他科目との出題内容の重複に注意しつつ，資料の分量や難易度に配慮しつつ，引き続き問題作成を行っていきたい。

⑵　全体的な難易度としては適正であったと考える。また，図や写真，グラフ，表などの資料が豊富で，組合せ選択の小問も多いため，高得点を得にくいとの指摘を受けた。「世界史Ｂ」や「日本史Ｂ」との難易度調整にも配慮しつつ，引き続き適正な難易度の問題作成を目指したい。

⑶　生徒に興味・関心を持たせる工夫を持たせた出題が評価される一方で，資料数の多さやその読み取り難さについて指摘があった。また，昨年度までに引き続き，写真の判読性の改善やカラー化に関する要望がなされた。これらの課題については，今後も継続して検討を重ねていく必要がある。

⑷　全問題を通して高等学校での学習内容を踏まえた内容の様々な問題で構成され，出題分野のバランスは適切であるという評価の一方，地域差がみられる事象に関して，高等学校での学びに即した適切な資料を用いることへの要望が出された。初見となる資料を用いて受験者が高等学校で身に付けた資質・能力を問う形式の活用は，「地理探究」への連続性・継承を考え，引き続き検討していきたい。

⑸　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であり，豊富で工夫を凝らした資料の提示，問題を解きながら様々な地理的事象に触れることができる出題形式などが随所に見られる，高等学校における授業改善の指針となる試験であったと評価されたといえる。次年度以降も，「地理総合」「地理探究」の移行に向けたモデルとなる，地理的な思考力・判断力・表現力等を多面的かつ多角的に問うことのできる内容で，かつ適切な難易度・分量で出題する努力を継続していきたい。